

スコアシート	実施設計段階	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							3.4
Q1 室内環境							
1 音環境							
1.1 騒音							
1.2 遮音							
1 開口部遮音性能							
2 界壁遮音性能							
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							
1.3 吸音							
2 温熱環境							
2.1 室温制御							
1 室温							
2 外皮性能							
3 ゾーン別制御性							
2.2 湿度制御							
2.3 空調方式							
3 光・視環境							
3.1 昼光利用							
1 昼光率							
2 方位別開口							
3 昼光利用設備							
3.2 グレア対策							
1 昼光制御							
3.3 照度							
3.4 照明制御							
4 空気質環境							
4.1 発生源対策							
1 化学汚染物質							
2 アスベスト対策							
4.2 換気							
1 換気量							
2 自然換気性能							
3 取り入れ外気への配慮							
4.3 運用管理							
1 CO ₂ の監視							
2 喫煙の制御							
Q2 サービス性能							
1 機能性							
1.1 機能性・使いやすさ							
1 広さ・収納性							
2 高度情報通信設備対応							
3 バリアフリー計画							
1.2 心理性・快適性							
1 広さ感・景観							
2 リフレッシュスペース							
3 内装計画							
1.3 維持管理							
1 維持管理に配慮した設計							
2 維持管理用機能の確保							
3 衛生管理業務							
2 耐用性・信頼性							
2.1 耐震・免震							
1 耐震性							
2 免震・制振性能							
2.2 部品・部材の耐用年数							
1 躯体材料の耐用年数							
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		コンクリート刷毛引き仕上(床)、ガルバリウム鋼板・メッシュフェンス(壁)、デッキプレート(天井):30年	5.0	0.11			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水用VLP管:B、排水用VP管:B、冷媒用銅管:Cを採用、Eは不使用	5.0	0.22			
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.22			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	2.5	0.20			
	2	給排水・衛生設備	3.0	0.25			
	3	電気設備	2.0	0.25			
	4	機械・配管支持方法	4.0	0.25			
	5	通信・情報設備	1.0	0.25			
			非常用発電機の設置、受電設備の二重化、浸水対策	-	-		
3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり		3.0	0.50			3.0
	3.1 空間のゆとり		3.2	0.30			
	1	階高のゆとり	2.0	0.60			
	2	空間の形状・自由さ	5.0	0.40			
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30			
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40			
	1	空調配管の更新性	3.0	0.22			
	2	給排水管の更新性	3.0	0.22			
	3	電気配線の更新性	3.0	0.11			
	4	通信配線の更新性	-	-			
	5	設備機器の更新性	3.0	0.22			
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57			3.7
1 生物環境の保全と創出	I-1) イオンふるさとの森づくりの活動の計画の中で、周辺の生物環境を把握し、その特性に基づいて敷地内の生物環境の保全と創出に関する計画方針を立てている		4.0	0.30			4.0
	II-1) 敷地内にある生物資源の保存(表土)がある III-1) 外構緑化指数:40.40% IV-1) イオンふるさとの森づくりの活動の計画の中で、自生種の保全に配慮した緑地づくりを行っている IV-2) 表層土の保全必要量を定め、植物の生育に十分な土壌の確保した緑地づくり(生育基盤への対応)を行っている IV-3) イオンふるさとの森づくりの活動の計画の中で、野性小動物の生息域の確保に配慮した緑地づくりを行っている VI-1) 「イオンふるさとの森づくり」植樹祭(オープン時の地域住民による植樹活動の実施)により、自然と触れ合う・意識を高める機会を設け、生物環境の保全と創出を図っている						
2 まちなみ・景観への配慮	1) 建物の配置は道路からセットバックさせて圧迫感の軽減を図っている 2) 公道に面した駐車場まわりは、植栽により修景を図っている 5) 人通り・交通量の多い北側道路面を視点場と設定し、視点場側には、少し広めのスペースを確保し、2F出入口へのアプローチ階段を設置して、まちなみに開かれた印象を与える工夫をしている		4.0	0.40			4.0
	3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			3.6
LR1 エネルギー			-	0.40			4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-			-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13			3.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 0.35 住宅(専有部) -	5.0	0.63		5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)			BEI=0.350、高効率な照明・空調設備の採用	5.0	1.00		
集合住宅の評価(3c)			-	-			-
4 効率的運用			3.0	0.25			3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00			
4.1 モニタリング			3.0	0.50			
4.2 運用管理体制			3.0	0.50			
集合住宅の評価			-	-			-
4.1 モニタリング			-	-			-
4.2 運用管理体制			-	-			-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			2.9
1 水資源保護			3.0	0.20			3.0
1.1 節水			3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60			2.6
2.1 材料使用量の削減			F=325以上の鋼材、BCP、合成スラブの採用	4.0	0.10		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.20		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	2.0	0.10		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			-	3.0	0.20		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20			3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70			
1 消火剤			-	-			-
2 発泡剤(断熱材等)			5.0	0.50			
3 冷媒			3.0	0.50			
発泡材を用いた断熱材を使用しない			-	-			-
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.4
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率68%	4.2	0.33		4.2
2 地域環境への配慮			3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制			5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1 騒音			3.0	1.00			
2 振動			-	-			-
3 悪臭			-	-			-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40			
1 風害の抑制			3.0	0.70			
2 砂塵の抑制			-	-			-
3 日照障害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			3.7	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			4.0	0.70			
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30			
周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画			-	-			-